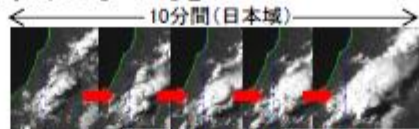


1. ひまわり8号について

昨年10月に打ち上げた「ひまわり8号」の運用を開始するとともに、「ひまわり9号」の製作等を継続。

【防災監視機能を大幅強化したひまわり8号・9号】

- ★解像度を2倍に強化
- ★観測時間を高頻度化
(全球10分、日本域2.5分間隔)
- ★観測種別を3倍に増加



- ✓ 急発達する積乱雲の早期検知
- ✓ 火山灰等分布・移動の高精度把握
- ✓ 台風進路の予測精度向上

「8号は27年度より運用開始、9号は28年度打上げに向け着実に推進」



【運用開始までの計画及び進捗状況】

衛星の製作(H21~28)…約340億円



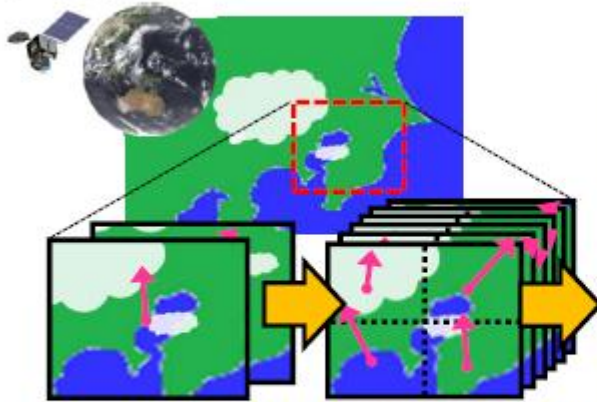
衛星の打上げ(H23~28)…約210億円



衛星の管制等に係る地上設備の整備、衛星の運用(H22~41)…約300億円



◎解像度2倍、観測頻度6倍となるひまわり8号のデータを処理するための計算環境を整備し、台風・集中豪雨等の予測精度を向上



50km格子で1時間毎に算出 25km格子で10分毎に算出
★解像度2倍 ★観測頻度6倍

○観測点が極めて少ない海上の風データを含み、
気象予報モデルにとって非常に重要なデータが増加
→気象予報モデルの精度向上

台風・集中豪雨等の予測精度向上



台風進路予報誤差が約8%減少※
✓ 48時間後の予報誤差約10km減少※
✓ 72時間後の予報誤差約20km減少※
※平成25年台風第22～27号における実験結果

《台風進路の予測精度向上⇒範囲・時間帯を絞った防災気象情報の提供を通じ、地域社会の安心・安全に寄与》

2. 防災行動に対応した防災気象情報の改善

◎気象警報の刷新に必要な予報作業支援システムを強化

平成28年度以降 ～特別警報を含めた防災気象情報の効果的な運用へ向けた取組みとして～

- ピンポイントの防災ニーズ、ICT環境高度化に対応し、危険度のメッシュ情報等を提供
- 早め早めの防災対応をサポートするように、防災気象情報の体系を改善**
- 現在1日先までの雨量予測を2日先までとし、**大雨災害等への備えを強化**
- 台風に関連する情報を充実**(予測される海上の風向風速、波高の変化を詳細に提供)

○メッシュ情報等を提供

大雨・洪水等気象リスク(危険度)をメッシュ情報で提供
避難行動を支援

○防災行動に対応した情報体系の導入

段階的に発表される防災気象情報を活用して早め早めの対応

情報 → 情報 → 情報

避難準備 → 避難勧告・指示 → 発災

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
現行システム	---	開発	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
次期システム	---	---	---	---	---	---	---	開発	→	→	→	→	→	→

《早めの避難行動と事前の防災対応・地域社会の防災力の強化・早期復旧活動へ貢献》

3. 竜巻等の激しい突風に関する気象情報の高度化

◎XバンドMPLレーダネットワーク(XRAIN)のデータを活用して「竜巻注意情報」の発表対象を細分化し、確度の高い情報を提供することにより住民自らの安全確保行動を支援するためシステムを統合・強化

突風等短時間予測システム

降水 雷 竜巻

XRAIN

250m格子データの処理

局地的大雨予測システム

XRAINで検出したメソサイクロンの活用

XRAINで竜巻の線(メソサイクロン)を検出

XRAINデータ利用の高度化

「竜巻注意情報」高度化

現状: 府県全体を対象に発表

H28~: 府県を2~7に分割した区域

絞り込み: 突風等の可能性のある領域

より注意領域を絞り込んで発表

竜巻等の情報 → 安全確保行動

次期突風等短時間予測システム

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
突風等短時間予測システム	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
局地的大雨予測システム	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
次期システム	---	---	---	---	---	---	---	---	開発	→	→	→	→

《住民の安全確保行動の促進・地域社会全体の防災力の向上》